# 平成25年度協働のまちづくり活動支援事業公開選考会（公開プレゼンテーション）の様子をご紹介します

平成25年

協働のまちづくり活動支援事業

## 公開プレゼンテーション

～私たちの想いを伝えたい～

協働のまちづくりをすすめるために、市民活動団体が独自の発想と専門性を生かして、地域の課題解決に向けたアイデアをプレゼンテーションします。市民活動をしている方、始めたい方！どんなことをしてるのかな？と思った方など…

**どなたでも参加できます！！**

日時：平成25年6月8日（土）13：30～
場所：江別市民活動センター・あい
（江別市野幌町１０番地１　イオンタウン江別２階　）
主催：江別市
問合せ：江別市民活動センター・あい（電話：０１１－３７４－１４６０）

### 応募団体

| 団体名 | 事業名 |
|---|---|
| ①メディネット江別（江別観光ボランティアガイド） | 我がまち江別を知ろう、知らせよう事業 |
| ②江別創造舎（のっぽろ七丁目放送局） | 江別カルタで辿る江別物語 |
| ③野幌ノルディックウォーキングクラブ | 骨盤底筋体操＆ノルディックウォーキング講習会 |
| ④子育て支援ワーカーズきらきら | 子育ち・子育て応援「日曜親子ひろば」 |
| ⑤あおむし人形劇団（大麻沢町サンゴールド自治会） | 一緒に人形劇を作って高齢者コミュニティを元気にしよう！ |
| ⑥黒澤記念室内楽団 | 明日を担う江別の子ども達へ、市民の手で創る江別ジュニアオーケストラ！ |

（）内は事業実施団体です。

この事業は、江別市より委託を受けて「NPO法人えべつ協働ねっとわーく」が運営します。

【問合先】江別市民活動センター・あい／担当：清本
電話：011－374－1460／メール：info@center-i.jp

**日　時**：平成 25 年 6 月 8 日（土）
午後 1 時 30 分～

**場　所**：江別市民活動センター・あい

**参加団体**：下記の6団体

（発表順～当日の発表内容の概略となります）

- ●市民活動団体メディネット江別
  （協働団体　江別観光ボランティアガイド）
- ●江別創造舎
  （協働団体　のっぽろ七丁目放送局）
- ●野幌ノルディックウォーキングクラブ
- ●子育て支援ワーカーズきらきら
- ●あおむし人形劇団
  （協働団体　大麻沢町サンゴールド自治会）
- ●黒澤記念室内楽団

●選考委員（左から）

岡本　浩一　委員
（北海学園大学工学部建築学科准教授）

斉藤　ちず　委員
（NPO 法人コンカリーニョ理事長）

阿部　晃治　委員
（江別市自治会連絡協議会会長）

**《市民活動団体メディネット江別》**

**★『我がまち江別を知ろう、知らせよう事業』**

**発表者**:「江別を全国に知ってもらいたい」を事業のコンセプトとしている。ICT によって江別市や観光ボランティアガイドを全国に PR していく。ガイドしている所を撮影し、DVD やパワーポイントで記録することで、観光ボランティアガイドの活動に寄与できる。

**選考委員**:それぞれの団体の専門性を活かした組み合わせの良い活動と思う。両団体ともにどのくらいの年齢層が活躍しているのか。若手育成の考えは？

**発表者**:メディネット江別は６０～７０代が中心である。自分たちが１０年１５年と続けられるわけではないので、講座を開いて若手の育成も行っていきたい。

**共催者**:終戦前後生まれが中心。若い人に入ってもらいたいとガイドをする中で地道に宣伝活動をしている。江別の今と未来についてもガイドできるよう、フード特区など色々なことを取り入れていこうと、専門家を呼んで勉強会をしている。

**選考委員**:全国に対してと市民に対してでは、知らせ方が違うのでは？ICT についても聞かせてほしい。

メディネット江別と
江別観光ボランティアガイドの発表

**発表者**:ICT とは情報通信技術全般のことで、ホームページや SNS などの総称である。メディネットのサイトは、月５００～６００の閲覧件数があり、全国と江別市民への知らせ方は共通する部分がある。これに加えて市民には、SNS を活用した周知も考えている。

**選考委員**:江別は札幌に近く、観光客を呼び込むには良い活動と思う。３年計画ぐらいで考えているということだが、単年度ごとの課題を伺いたい。

**発表者**:今年度は主に観光ボランティアガイドの活動紹介、次年度は文化協会等の他の市民活動団体の活動も取り上げていきたい。最終年はそれらの情報を網羅して発信できる場を作りたいと考えている。

**《江別創造舎》**

**★『江別カルタで辿る江別物語』**

**発表者**:当団体は２００７年に活動を始め、地域が生き、地域が活かされる人づくりを目標に、江別を紹介するカルタを作っている。今年８月に完成する予定であり、周知のための発表会としてカルタ大会を行う。単発イベントとならないよう、この会は七丁目放送局の協力を得て実況中継をし、合わせて江別の文化・歴史をいつでも見られるよう紹介していく。

**選考委員**:カルタは何セット作るのか。また、教育機関や地域活動団体と連携するとのことだが、今時点で具体的なものがあるのか。放送する以外のカルタの活用方法は？

**発表者**:カルタは江別の素材でできた特殊な紙を用いて、３００セットを作る予定である。DVD にカルタの作り方や資料を入れる。また、実際にカルタを作るという内容の出前授業を行っていきたい。

**選考委員**:カルタは、子供向けのイベントなどに貸し出し可能なのか。

**発表者**:紙までこだわることから、単価が高く、多くは作れないため、貸し出しは考えている。また、カルタ大会へ参加してくれた方に記念品として差し上げることも考えている。

江別創造舎と
のっぽろ七丁目放送局の発表

**選考委員**:デジタルメディアにて広めていくというのは、個人的に渡されても中々見ないものである。デジタルで環境を整えることと広まることは違うので、できたものをどう広げるかというところを工夫してほしい。

**発表者**:DVD として作成すると色々な施設においてもらえるのが強みとなる。それは放送の中でも紹介できるものでもあるので、どこからのアクセスでも常に見ることができる状況を作りたい。

**《野幌ノルディックウォーキングクラブ》**

**★『骨盤底筋体操＆ノルディックウォーキング講習会』**

**発表者**:「歩くことは、生きること」して市内の方に気軽にできるノルディックウォーキングの魅力を伝えていきたい。足の調子が悪い方でも、ポールを使うことで歩くことができる。また、一緒に歩くことで仲間作りや地域の交流にも寄与できることから、これからの高齢化に向け、ノルディックウォーキングを広めていきたい。

**選考委員**:体操とノルディックを結びつける理由は何か。著名な講師を遠くから呼ぶようだが、江別近郊から呼ぶことや、自分たちで養成するなど、広めていくには地元で指導できる人が必要と思うが。

**発表者**:骨盤底筋体操は、健康運動指導士の資格なしには教えることができない。骨盤を締めるという体操も一人だと長続きしないため、ノルディックと合わせることで、楽しみながら鍛えることができることから、組み合わせた。

**選考委員**:事業の目的ではなく、団体の目的は何か。健康づくり？ノルディックの普及？

**発表者**:健康づくりと仲間作りが目的である。

野幌ノルディックウォーキングクラブの発表

**選考委員**:この事業の目的からすると、地域の方にどんな暮らしの豊かさ、良い影響をもたらすのか。
７０名ほどの参加者をどのように見込めるのか。

**発表者**:募集をするので確定しているわけではないが、最大７０名対応可能である。

**選考委員**:健康づくりで、地域の人たちに暮らしの豊かさ、まちづくりの切り口で貢献はできると思うが、もう一声、市民の方への働きかけという部分での側面が欲しいと感じた。例えば、この活動をすることによって、引きこもりの皆さんが外に出られるきっかけになるとか。

**発表者**:ポールを持つことで外に出るきっかけづくりとなり、それが会話することにもつながると考えている。

**《子育て支援ワーカーズきらきら》**

**★『子育ち・子育て応援「日曜親子ひろば」』**

**発表者**:今回は、商業施設内での日曜ひろばと昨年実施し好評であったきらきらたいむを行う。わざわざ子育てに関する施設に行くのは面倒でも、商業施設内だと、買い物ついでに立ち寄ることができるため、子育てひろばに参加してみるきっかけに繋がる。また、育児に関心がない人たちにも育児の今を見てもらうことができるため、色々な方々を巻き込めると考えている。一団体では開催が難しくても、地域の方々とつながり、協力を得ながら実現して行きたいと考えている。

**選考委員**:類似の子育て支援等の活動もあるなかで、キラキラを利用する人も少なくなっていくという現状もある中、昨年の活動でつながった外の団体と連携するというのはとても良いことと思う。昨年までとは違うところを具体的に知りたい。

**発表者**: １年目が子育て中の親子を対象に、２年目はそれを支援する人も対象とした。３年目は子育てに興味のあるなしに関わらず、直接関係のない人も巻き込み、地域で子育てをやっていくというところが今までとは大きな違いである。

子育て支援ワーカーズきらきらの発表

**選考委員**:団体の目的として、子育て中の母親をサポートするという意識が強いだろうが、さらに、子育てをする過程を体験できますよという視点にすると良いと思う。これを商業施設内でできるのは強みとなると思う。
また、託児のシステムも合わせてできると良い。買い物中に子どもを預けたいと考える人もいる。一方で、子どもの遊んでいる風景を見るだけで、心癒される大人もいる。そういう風に子どもを育てるという活動自体が、社会に貢献しているんだということでコンセプトを組み直すととても良い状況になると思う。

**《あおむし人形劇団》**

**★『一緒に人形劇を作って高齢者コミュニティを元気にしよう！』**

**発表者**:人形劇を一緒に作り上げることをコンセプトに、昨年度の活動では自治会内に人形劇団が作られたが、これらの成果をもとに、参加者の特技を生かしてより良い活動にしていきたい。男性の参加者がいないので、活動に誘うためにも人形劇を演じる中で男性ならではのポジションの重要性をアピールするほか、活動情報をチラシに掲載することや体験会等を行い、呼びかけていきたい。

**選考委員**:昨年度からの継続事業ということで、昨年の事業ではとても良い成果が得られたようでうれしく思う。男性の参加については、木工とか女性ではしんどいことを具体的に書いて一本釣りし、一人だとなかなか来ないので二人以上で来てもらい、来たら逃さないように。
今年のグレードアップの手法は。

**発表者**:軍手人形などを考えている。

**選考委員**:子ども達との関わりは？作品の一部になれるように子どもも巻き込むと良いと思う。通りがかりの人でもすぐに参加できるようにすると、引き込みやすくなる。

あおむし人形劇団の発表

**選考委員**:段階を追ってきちんと積み上げているのが分かる。今回の工夫としては、制作体験みたいなことも加えたいということなので、本番には来られなくても、体験で面白さが伝われば、男の人も来てくれると思う。気長にやってもらいたい。

**《黒澤記念室内楽団》**

**★『明日を担う江別の子ども達へ、市民の手で創る江別ジュニアオーケストラ』**

**発表者**:昨年度の事業により、自治会を中心に活動の認知度が広がった。今年度は、ジュニアオーケストラの設立に向けて、弦楽アンサンブルを始めたい。道内には６つのジュニアオーケストラがあるが、市内にはない。江別でも設立し、北海道内のネットワークを構築したい。今回、講師として群馬県でジュニアオーケストラを指導されている南先生をお呼びしたい。この先生は、県内はもちろん海外２８か国でもジュニアオーケストラを設立している。さらに、昨年度できた自治会や市民活動とのつながりも活かして、子供たちの活動を支えてもらいたいと考えている。

　子どもたちの活動を地域で支えていくことは、とても重要である。一度は市外に出ても、また社会人になって戻ってきたときに大人のオーケストラに加われるようにして、文化の連続性を作りたい。

**選考委員**:大変すばらしい計画だと思う。５回の指導で子どもはヴァイオリンを弾けるようになるのか。また、どんな子どもを対象とするのか。

**発表者**:対象については、小学３年から高校２年を対象とする。５回でできるかだが、いきなり難しい曲を弾くわけではなく、簡単な曲を弾く程度なら充分である。ジュニアオーケストラは仲間と一緒に取り組めるのが良い所。

黒澤記念室内楽団の発表

**選考委員**:室内楽団の方が、ジュニアにための何かを設立しようというのは、流れとして自然で良いと思う。これを今年度実施したい理由は？

**発表者**:個人的にはジュニアオーケストラを作りたいとずっと思っていた。子どもたちに音楽を教えていきたい。団体も巻き込み市民の手で作っていけたら素敵だと思った。

**選考委員**:昨年自治会などと組んでいたが、その部分での継続はないのか。

**発表者**:今回の事業には入れていないが、昨年度行けなかったところを含め、自治会とのつながりは保っていきたい。依頼があれば引き受ける。